

化学物質ゼロの住まいを目指して。

イタヤカエデのフローリングと珪藻土のリビングダイニング。

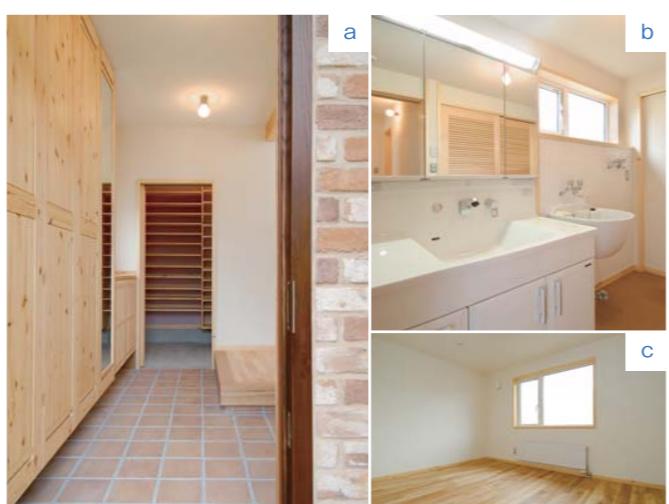


客間の和室は、有機イ草の畳と土佐和紙で仕上げ。



化学物質の放散の少ないホーロー製システムキッチン。

- a 収納たっぷりな玄関ホールの床は、テラコッタタイル。
- b 洗面所などの水廻りの床は、水に強く暖かなコルクタイル。
- c 2階の個室はナラのフローリングとホタテ貝殻の漆喰壁。



エ/コ/ロ/ジ/ー/建/築/エ/房
有限公司 西條インテリアデザイン

本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581
伊達支店:〒052-0014 伊達市舟岡町50-28
Tel.0142-22-0138 Fax.0142-22-0139

資料請求番号 | 08

くわしい企業情報は
「北海道ビルダーINDEX」をご覧ください。



道南杉、ブリックタイル、
コテ塗り壁を組み合わせた外観。

食品の偽装や薬物の混入など、安全な生活を脅かす事件が絶えず繰り返される世の中。ドイツのエコロジー建築では、住まいのこととを第三の皮膜として例えられているという。第三の皮膜は私たち自身の皮膚。第二の皮膜は私たちが着ている洋服。そして、第三の皮膜が私たちの住む家のことだ。私たちを守るために皮膚が安全で着心地の良いものであるかは、とても大切なことなのだ。

家を建てるための建材類は進歩をとげた方で、化学物質の接着剤や塗料に含まれる有害成分により多くの健康被害をもたらしてきた。建築基準法の改正により、化学物質の使用量や成分に制限がなされたが、相変わらずシックハウスの被害は起きている。

安心して暮らせる住まいを考えたとき、化学成分を出来るだけ含まず自然のままの材料で建てたいというのが西條インテリアの一貫した姿勢だ。この家を建てるのに使われた合板は、コルクタイルの下地用のみ。畳と同サイズの厚さ21mm相当の合板が7枚分だ。たったこれだけでも使われている接着剤の量は、約45kgにもなる。この家と同じ建物を集め成材の梁と柱で組み立て、一般的な工法で合板と新材を使用して建てた家ならば、約300kgもの接着剤を使用することになるのだそうだ。断熱材や建具、家具を含めると

さらに使用量は増え、現場での施工の際に使われる接着剤まで含めると、ドラム缶2ドライバードを大げさでは杯分使うといわれるのも決して大げさではないのだろう。

この家には造作の家具や建具がたくさんあるが、すべて無垢材と少量の水性接着剤でつられており、ベニヤ板や合板類は一切使われていない。再生紙の天然系断熱材、施工用の接着剤の使用は最低限にし、塗料と同じドイツ製で天然成分のリボスを使っている。接着剤の使用量は、トータルで一般住宅の約100分の1だ。見えないとこころにも手を抜かず、限りなく化学成分を排除し化学物質をゼロに近づけたのである。それはどんなに高性能な換気設備をつけたとしても、リスクを抱えてまで化学物質との共生などしたくはないからだ。

自然素材にこだわったこの家は、家族の健康と安全を守り、いつの日か寿命が来て解体され、資源がリサイクルされる時にも、地球にやさしく迷惑をかけない家であると思う。西條インテリアデザインでは、10年以上もこのコンセプトを守り続けて、地球と共生する住まいを提案し続けている。